

衆議院外務委員会ニュース

平成 22.3.17 第 174 回国会第 5 号

3月17日(水) 第5回の委員会が開かれました。

1 国際情勢に関する件

- ・岡田外務大臣、松野内閣官房副長官、武正外務副大臣、榛葉防衛副大臣及び楠田防衛大臣政務官に対し質疑を行いました。

(質疑者及び主な質疑内容)

岩屋 毅君(自民)

- ・いわゆる「密約」問題に関する有識者委員会報告書が直ちに外務省の見解にはならないとのことだが、同有識者委員会の位置づけはどのようなものか。
- ・いわゆる「密約」問題に関する有識者委員会報告書にある「暗黙の合意は広義の密約である」は新概念であるが、岡田外務大臣はどのように考えるか。
- ・普天間飛行場の移設に関し、岡田外務大臣がもっとリーダーシップをとるべきではないか。

平沢 勝栄君(自民)

- ・キャンベル米国防務次官補の訪日が直前で中止になったとの報道があったが、この件に関して外務省の見解を伺いたい。
- ・岡田外務大臣は、3月12日の記者会見で、普天間飛行場移設問題について、「ゼロベース」で取り組むと発言されたが、これは普天間飛行場の継続使用や2006年に日米が合意した辺野古沿岸部への移転の可能性も含まれるという意味なのか。
- ・普天間飛行場の移設先の候補地として、政府案の決定前に複数の地名が報道等で挙がっており、候補地とされた地方自治体に混乱を招いているが、この現状についてどう考えているのか。

赤松 正雄君(公明)

- ・PKO協力が制定され、約20年に亘って我が国のPKO活動が展開されてきたが、PKO活動の在り方につき、岡田外務大臣の認識を伺いたい。
- ・PKO5原則、特に「武器の使用」についての見直しに関し、鳩山政権でどのような議論がなされているのか伺いたい。
- ・PKO活動に関し、武力行使を伴うものであっても、国連決議の下であれば、「憲法第9条の国権の発動たる戦争」には該当せず、憲法に抵触しないという解釈がある

が、岡田外務大臣の見解は如何か。

笠井 亮君(共産)

- ・2000年から2009年の間、米原子力潜水艦は我が国に何度寄港したのか。
- ・米国の「通常の場合には」核兵器を搭載しないとの決定により、今後とも核兵器搭載米艦船が我が国へ寄港しないと切り切れるのか。
- ・米議会戦略態勢委員会に出席した在米日本大使館員は、米軍の核弾頭型トマホークミサイルの退役についてどのような発言を行ったのか。

木内 孝胤君(民主)

- ・鳩山政権下における外交の成果について、岡田外務大臣の所見を伺いたい。
- ・経済外交における官民連携の方針について伺いたい。
- ・農業などの国内問題の解決も含め、経済連携協定・自由貿易協定には今後どのように取り組むのか。

早川 久美子君(民主)

- ・駐沖繩大使の設置に際して、政府と沖繩県との間でどのようなやり取りがあったのか。
- ・2010年1月に新設された内閣官房沖繩連絡室分室と駐沖繩大使との役割の違いについて伺いたい。
- ・外務省沖繩事務所の土地建物借料が年間1,754万円にも上っている理由は何か。

服部 良一君(社民)

- ・非核三原則を法制化する考えはないか。
- ・国会において非核三原則を堅持するとの決議が何度も行われている中で核に関する密約が維持されてきたことは、行政と国会・国民との間の信頼関係を破壊するものでは

ないか。

- ・外務省における機密文書の廃棄について同省は調査を行ったのか。